

誌上行学講習会

高佐日焯上人

しかるに我々は今、死なない生命が欲しいのであります。子孫の時代にそれが出来るというのではおそすぎます。そこで我々は今四徳波羅密（しとくはらみつ）の生活を受け取らねば目下満足出来ないということになります。人類全体の都合長い時間をかけるといふことは解つても、直接我々個人、今生きている者の立場からすれば待つていられないのであります。我々は今、死なない生命と、無苦安楽の生活、自主自由と清浄平安の樂土を求めて生きています。これを受け取らなければ何の為に生きていますのかからぬのであります。

言いかえれば我々人間はこのことをはっきり把み取るために生きています。生かされたいのであります。人生を勉強して生きています。

我々人間は生きる前に要求をもっています。その要求の満たされるものを幸福と名付けるのであります。その幸福を教えるものが正しい宗教であると言えらるるのであります。我々は現実に於て此の四大目的を成就するといふことを常に考えていなければならぬのであります。「それが精神修養に他ならぬのである。」精神修養といふのは自分自身が一番大事なことをごまかす。知るといふことであります。

私共が講義の始めと終りに合掌してお題目を三唱いたしますのも、この精神修養の一つでありたい。私があなた方の御人格を拝む、あなた方も私を拝む。南無妙法蓮華經というのをお互いに拝み合うということでもあるのです。光りある人格をあげめる名前をお題目というのであります。

人間はやがて仏となり、仏らしく生きるのであります。やがて仏となれば人間の御本體をお互いに拝み合うわけでありたい。それから時間を正確に守るといふのも大事な精神修養の一つであります。時間をルーズにいたしますとすべてが乱れて参ります。何事も失敗します。必ず時間が守るようお互いに努力していただきたいとおもうのであります。

以下次号に続く